

〇〇さん コーチング <Pre-TOEFL Reading 復習テスト第1回>

〇〇さん、こんにちは。これから〇〇さんのコーチングを担当します講師の安宅です。
〇〇さんは大学院留学を目指しているのですね。目標の留学、さらには留学先での学習を実り多いものにするために必要な英語力を身につけていただけるよう、できる限りのアドバイスをしていきたいと思っていますので、宜しくお願いします。

リスニングの取り組みはまだこれからのようですが、Pre-TOEFL のレベルではListening もわかりやすく進んでいきますので、ぜひ始めてみてください。

初回コーチングなので、コーチングでは何を指すのかをまず説明します。
学習の目的は、当然ですが「力を伸ばす」ことですね。ですが10人の生徒が同じ教材で同じ時間学習をしても、どれくらいという「力が伸びたか」は10人それぞれに違ってきます。どのように頭を使い、集中しているか、ほんとうに覚えたことがどれくらいあるか、覚えたことをなるべく早く使ったり思い出したりしているか、などの目に見えないところで、差がついてきます。これは通学している生徒さんでも同じで同じ授業に出ていても半年、1年のうちに差がついてきます。コーチングによって、「力が伸びる」学習方法へと修正をしていただくことが、一番の目的です。コーチングを読むということだけでは、学習方法は修正されません。コーチングを読み、そこまで考えるのか、そこまで覚えるのか、どう学習するのか、などを吸収してください。そしてそれを次の学習、毎日の学習に生かして、毎日の学習を変えてください。今回のコーチングは、すでに学習されたPre-TOEFL Readingの復習テスト1をもとにしています。復習テストでは取り上げていない問題、パッセージもありますが、英語力が伸びるための学習ができていれば、どの問題も平均的にマスターできているものです。当然ですが、復習テストには出てきていない問題もすべて、復習の対象にしてください。

コーチングでは、〇〇さんが間違えた問題を取りあげていきます。折角正解している問題もあるのに、間違いばかりを見直すのはあまり楽しくないかもしれません。でも、自分の間違いはマイナスではなくて、チャンスです。自分の間違いの中にこそ自分の力が伸びるきっかけがあります。間違いをマスターしていくだけでもかなりの力が伸びるのです。短期間に力を伸ばす生徒さんは皆、自分の間違いを徹底的に学習します。コーチングを参考にして、どのようにもっと細かく学習、復習すればよいのかを自分なりに見直して、すべてのレッスンの問題のまちがいを復習してください。

ここで「力の伸ばす」ための鉄則を確認しておきましょう。
大事なのは「理解する」→「覚える」→「覚えた知識を使う」という流れです。「理解する」には時間をかけてよく考えることが必要です。英語とはいえ、思考力や分析力など、英語に限らない力も必要とします。文の意味、文の構造などはかなりよく考えなければならないことも多いでしょう。いい加減にさらっと読み流す・深く考えないくせがついてしまうと、なかなか英語力は伸びていきません。予習で自分なりに理解することも、授業を受けながら理解することも、復習で以前よりもさらに多くのことを理解することも、すべて大切です。次に「覚える」ですが、単純に「理解する」を繰り返せば覚えられることも多いでしょう。ビデオの授業を何度も聞けば、それだけで覚えられることがあると思います。ただし、ビデオ授業だけを繰り返し見るだけでは不十分です。「自力で」英文を読む、聴く、という作業をしなければ、生きた知識としては覚えられません。授業を受けたあとに、同じ教材・同じ英文を何度も「理解しながら」読んだり、聴いたりしましょう。すると単語の意味も自然に覚えていきます。最後に「覚えた知識を使う」というのは、まずさきほど書いたように自力で読んだり聴いたりしながら、知識を使って理解することです。さらには覚えた単語が別の英文にあったときにわかるようになること、文法知識を使って問題を解いてみること、暗記した英文を書いてみることも、知

識を使うこととなります。理解するにも、覚えるにも、知識を使うにも、ただ授業を聞き流すのではなくてメモを取りながら聞いたり、覚えるために書いてみる・口に出して言う、などの目に見える作業をすることがとても大切です。ノートをあまり綺麗にする必要はないのですが、あとで見て復習しやすいうように、単語の意味やわかりにくい構文・文法事項などのすべての情報を、教材のコピーに書いてしまうことも生徒さんにお勧めしています。最後には何も書き込んでいない綺麗な教材を読みながら、すべての情報が頭の中によみがえってくる状態を目指してください。

さて、「理解する」→「覚える」を徹底的に行うために、ひとつコツがあります。

「忘れる前に覚える」「忘れたら理解しなおす」という2本立ての復習をすることです。

たとえばLesson1を今日はじめて学習したとします。自分の間違いについて、どうして間違えたのか・正解がどうしてそうなるのかをまず「理解」しておきます。この段階にかなり時間をかけてください。でもここまでは、まだ力がついていません。力を伸ばす準備ができたところです。次に「忘れる前に覚える」ことが大事なのです。目安としては1週間以内に、同じ問題（間違えた問題を中心に、ただし英文パッセージはすべてを理解しなおす）の復習をします。1週間以内であれば、初回に「理解したこと」がかなりよみがえってきます。初回よりも短時間で理解できるようになっているはずで、それが大事です。そういう状態でインプットしたことはかなり長期記憶に残るといわれています。私自身も、ほかの生徒もこの方法（1週間以内に復習をする）でかなり効率的に力を伸ばすことができましたので、これはぜひとも実践していただきたいことです。そして「忘れたら理解しなおす」ですが、これはまた同じ問題をさらに復習するのですが、少し間があくと、いくらかはまた忘れていきます。忘れたままだと初回学習と同じレベルに戻ってしまうのですが、ここで頑張ればまた比較的楽に取り戻すことができます。謙虚に初回と同様理解しなおすつもりで学習し、またそれを忘れる前に復習しましょう。このようにしつこく上塗りを重ねることによって、Reading力はとくに効率よく、確実に伸ばすことができます。もちろんどの学習でも、丁寧に理解するために頭をよく働かせることが不可欠です。頭をよく働かせるためには、日本語で意味を言う、書いてみるなどの明確なインプットをすることが効果的です。わかっているつもりでも、授業であてられると意味がわからない、ということがよくあります。そういう場合はほぼまちがいに理解が不足しています。オンライン学習の方はそういう機会がないので、普段から自分に厳しく「意味を言う」「書いてみる」ことをお勧めします。

それでは〇〇さんのテスト結果から、見ていきましょう。コーチングだけを読んでも、学習すべき大事なポイントはわかるように書いているつもりですが、できればもう一度復習テストを解きながら、間違えた問題についてはコーチングを読んでみてください。

今回の復習テスト1での正解は、21問中10問でした。

正解が出せるからといって英語力が確実に伸びたとはいえないのですが（なんとなく覚えてしまっていることがあるので）、実力で全問正解できるようになることを目指して学習しましょう。また、目指す目標としては、大学院留学を文系で目指される場合、目安となるスコアを取るにはリーディングではほぼ満点が取れる力が必要だと思います。リスニングのほうが得意な人はリーディングのセクションが30点のうち22点くらいでもある程度スコアが出ますが、それでもリーディングが25以下の生徒は、大学や大学院でやらなければならないリーディングをこなせるかどうか、やや心配があると思います。とにかくリーディングで25以上、極力30点に近いスコアが取れば、ほかのセクションでもリーディング力は大きく影響しますし、努力次第で総合スコアが順調に上がることが多いです。ですからリーディングでは完璧を目指して学習してください。

まず最初の問題は、長文の空欄補充です。これはレッスンの中ではやっていませんから、実力テストのような感じがするかもしれません。が、授業の解説を理解して覚えたかどうか、パッセージの英文

を理解できるようになっているかどうか、を把握するために授業を担当されている四軒家先生が、空欄の場所を設定してくださっています。間違いから、自分の理解がまだ不足しているポイントがわかります。

空欄補充というのは長文の意味の理解のチェックもできますし、文法や語法も覚えられるので、良い学習になります。学習したパッセージを使って、自分で空欄を作って練習することもできます。(動詞だけを塗りつぶして練習したり、前置詞だけを塗りつぶして練習したり、とコピーを何枚か使ってやるいろいろな学習ができます。)

今回間違えてしまった問題から、学習していきましょう。

1 番

Consist of N (名詞) という、consist の使い方をミスしてしまった間違いです。(in を選んでいます。ここでの意味は consist of N (複数) = 「N から成り立っている、N で構成されている」です。Consist in N (単数のことが多い) = mainly be N = 「主にNである」は違う意味になります。

4 番

by () N (名詞) となっているカッコに、appointment という名詞を入れてしまった間違い。By (名詞) 名詞というふうに名詞を並べることはできません。(できるのは例外的に、同格の場合だけです。We Japanese are.. などのような場合。)
正解は appointing N となります。文法的には reserving N や giving N などと同じ形です。Gift N とか reservation N という使い方はできません。

5 番

〇〇さんは provide を選んでいます。
Commissioner Lin Zexu battled the problem of drug use and attempted to () the source. という空欄です。前後の文からもわかることは、Lin Zexu はアヘンを取り締まり、撲滅しようとしています。Provide the source だと「その源をもたらそうとした」という意味になってしまい、文脈に合いません。Eliminate が正解で、その源を根絶しようとした、という意味です。

6 番

これも大事な文法です。Paragraph2 についての最後の解説の中で、先生もよく出てくる文法として解説してくださっています。(英文の読解＝英文の構造を理解して意味を把握する ことは各パラグラフの最後の解説で丁寧になされていますので、復習するときはまずその部分を各パラグラフごとに聞いて、そして自分でパッセージを読むという練習を繰り返すと良いと思います。)

He blockaded the foreign community, stopped..., ordered..., arrested..., and demanded that the merchants () their stock of opium.

という空欄です。途中省略しましたが、He V1, V2, V3, V4, and V5. という文法になっています。5 つ目の動詞 demanded のあとだけが問題になります。Demand は「強く要求する」という意味で、そのあとに that SV が来た場合、V は原形にする、というルールがあります(アメリカ英語。イギリスでは should V にします)。ですから、主語に関わらず(この場合主語は the merchants と複数ですが)、時制の一致にも関係なく、「原形」の動詞 surrender が正解です。

10 番

正解は other で、文の中では
Other foreign powers staked their claims, making... となりますが、〇〇さんは the other を選んで

います。Other N (複数) と the other N (複数) では意味が違います。
簡単にいうと、the がつくと「のこりすべて」を意味します。Others と the others でも同じです。
次のふたつの違いを考えてみてください。

- 1 Some students in my class live with their parents. Others live in student accommodation.
- 2 Some students in my class live with their parents. The others live in student accommodation.

意味はどう違うのでしょうか。1 のほうは、the がついていません。これだと、自宅から通っている学生と、学生寮から通っている学生と、そのほかにもまだ学生はいることになります。ところが2のほうは the がついてますので、クラスには自宅の学生、学生寮の学生、しかいないことになります。「the other だと最後のすべて」とまず覚えておきましょう。

単数の other でも同じです。たとえば

I have five brothers. Two live in Tokyo, other two live in Osaka, and the other lives abroad.

というふうになります。それが「のこりすべて」であるときは、単数でも複数でも the がつくのです。

ほかの問題はよくできていますね。空欄補充が目的ではなく、ほんとうはパッセージ全体を正しく深く読解できる力を持つことが目的です。何度も読み込んで、細かいところまで意識が行くようにしましょう。

次はパッセージに5問の問題がついているタイプです。これもパッセージはレッスンで学習したものと同じですが、問題は新しいものがほとんどです。問題は iBT 本試験でも出題される形式(問われ方)になっていますので、より実践的だと思います。少し難しいかもしれませんが、授業をよく理解して、自力でも英文読解が丁寧にできるようになっていれば、この復習テストでの問題もわかってくると思います。(初回で正解できなくても構いません。パッセージの読解学習をビデオ授業を使ってやりなおし、コーチングでの解説をもとに間違えた問題の復習をしてください。)

まず11番を見ましょう。

11. What can be inferred about the interviews in the study mentioned in the passage?

これは最後のin the passageという表現からもわかるように、passage全体から答える問題なので、正解は P a s s a g e のどこにあるのかわかりません。ですから第1問ですが実際には最後に解いたほうがよいかもしれません。選択肢は

- A) Questions about sexual interests were avoided.
- B) The results were nothing new.
- C) One question asked what made the participants scared.
- D) The interviews were shorter than expected.

となっていて、〇〇さんはBを選んでます。Bだと考える根拠がパッセージの中にはみあたりません。Bは「その結果は何も新しいものではなかった」という意味ですが、それに近い意味の文はありませんし、何も新しい発見がなかったのならばこのパッセージでの説明全体があまり意味がないものに思えます。正解はCで、その根拠は第1パラグラフの3行目、they were asked questions about such topics as childhood experiences, fears, hobbies,

musical tastes,という表現から、赤字にした fears が「恐怖」という意味だからです。

選択肢Cの意味は「One question ひとつの質問は asked 尋ねた what made the participants scared 何がその参加者たちを怖がらせる(時制の一致で過去形になっています)のか」です。

この問題では、fearsという一言の細かいことを聞いているように見えるかもしれませんが、そうでもあ

りません。they were asked questions about such topics as childhood experiences, fears, hobbies, musical tastes という文の中で、fears はいきなり出てくるので、普通は「どういう意味かな」と考える読み手が多いはずです。その前に「子ども時代の経験」があるので「自分は何が怖いか、という意味かな」と推測して読むことが多いでしょう。それを考えずにこの部分をさっと読んでしまっているという事は、英文の読み方がいつもやや雑だということになります。わからない単語にはすべて印をしながら読むのが、予習の第一歩です。自分がわからないのはどこなのかをまずはっきりさせることが、力を伸ばすにはとても大切なことです。また、選択肢Cは question が ask した、という書き方もあまりみることがなかったかもしれませんが、what made OC OをCにしたもの という部分もしっかりととらえる必要があるので、この選択肢をなんとなく不明なものとして敬遠してしまったかもしれませんね。ごく普通の英文なので、この選択肢を暗記するくらいよく理解しておきましょう。

次は14番です。

14. What similarity is NOT mentioned about the male twins?

- A) The way they wear.
- B) The emotional response to a certain event.
- C) The disease that they suffer.
- D) The preference in diet.

〇〇さんはDを選んでいますが、Dは本文の次の部分に書いてあります。第3パラグラフの3文目です。

Their mannerisms and temperaments were similar, and they shared certain characteristics: both liked spicy foods and sweet liqueurs, were absentminded, flushed the toilet before using it, liked to dip buttered toast in their coffee, and enjoyed surprising people by sneezing in elevators.

赤字の部分は食事(diet)に関係した好みについてですから、Dは mention されていることになります。正解はCで、双子たちが同じ病気をしたとはどこにも書いてありません。

最後に15番です。

15. Look at the last sentence “**it is unlikely that genetics alone can account for the extraordinary similarities of twins reared apart.**” Which of the sentences below best expresses the essential information in this sentence?

- A) Genetics can provide some important clues to the extraordinary similarities of twins reared apart, but those clues may not be sufficient to explain all the similarities.
- B) Although twins reared apart have many extraordinary similarities, genetics shows that they are lonely.
- C) Genetics can explain the extraordinary similarities of twins only if those twins are reared apart. However, such a situation will not occur.
- D) It is not clear whether twins reared apart have extraordinary similarities unless they are closely examined from the viewpoint of genetics.

まず問題になっている文は

“**it is unlikely that** 以下のことはありそうにない **genetics alone** 遺伝子だけが **can account for** 説明できる **the extraordinary similarities of twins reared apart** 離れて育てられた双子たちのものすごい共通性を .”

という意味です。〇〇さんはCを選んでいますが。

- C) Genetics can explain the extraordinary similarities of twins only if those twins are reared

apart. However, such a situation will not occur.

赤字にした部分が不正解の主な理由です。意味を確認してみましょう。

Genetics can explain 遺伝子は説明することができる the extraordinary similarities of twins 双子たちのものすごい共通性を only if もし・・なら(その場合だけ) those twins are reared apart. その双子たちが離れてそだてられる However, such a situation will not occur. でもそんな状況は起こらないだろう。

この問題は、問題文と選択肢だけを精読すればできるものでなく、パッセージ全体の理解も必要になっています。(iBTの問題でもそういうことがよくあります。)

問題になっている文は「遺伝子だけが、離れて育てられた双子たちのすごい共通性を説明できるとは思えない = 遺伝子だけが、その理由だとは思えない」ということですが、これがよくわかるためには、パッセージを読みながらその奥の意味まで考えながら読んでいる必要があります。離れて育てられた双子しか研究対象になっていない＝はなれて育てられるということは、環境がまったく違う＝でも双子なので遺伝子は兄弟姉妹よりも共通性がある＝そういう双子にすごい共通性があるのは、遺伝子のせいだとふつうは推測される＝でも筆者は、遺伝子だけでこういう共通性が出てくるのは不思議だと考えている、というように頭の中で考える必要があるでしょう。英語、というと英語の力を伸ばせばよいように思いがちですが、実際にはTOEFLテスト以上のレベルになると(TOEFLは大学1年生としてやっつけていけるかどうかの内容)、英語だけではない自分の思考力を駆使することが必要になっています。日本語でやっても簡単ではないような問題もあると思います。

正解はAです。

A) Genetics can provide 遺伝子は与えることができる some important clues いくつかの重要な手がかりを to the extraordinary similarities of twins reared apart, 離れて育てられた双子のものすごい共通性について but those clues でもこれらのがかりは may not be sufficient 充分ではないかもしれない to explain all the similarities. 共通性のすべてを説明するには。

という意味ですから、問題にされている文に大筋が似ています。この、特定の文の書き換え問題も、iBTで出題されますから、慣れておくとよいですよ。

あとの2問は正解されていますね。

次は単語の問題です。単語の問題では、まず「品詞」を考えましょう。たとえば動詞と同じ意味のものを選び、といわれて名詞や形容詞を選んでいては、大きく外れています。品詞が同じものなかから、意味が近いものがわかることが理想です。もちろん知らない単語では品詞もわからないのですが、意識して覚えていきましょう。

まず16問では、品詞はあっていますがかなり意味が違う単語を選んでいました。

16. irrational

A) illogical B) illegal C) irritated D) intense

〇〇さんはDを選んでいますが正解はAです。

16. irrational 非合理的な

A) illogical 非論理的な B) illegal 非合法の・違法の C) irritated いらいらしている D) intense 激しい・強烈な

この問題の選択肢はすべて形容詞でした。

次は、品詞が違うものを選んでしまっています。

17. tremor

A) trench B) tender C) tremble D) tenant

〇〇さんはBを選んでいますが正解はCです。

17. tremor 震える

A) trench 溝を掘る B) tender 柔らかい・柔らかくする・柔らかくなる C) tremble 震える D) tenant 借りて住む

問題の tremor が動詞なので、選択肢の意味も動詞を中心に書きましたが、〇〇さんが選んだ tender は形容詞「柔らかい」でみることが多いはずで、Trench, tenant は名詞でみるほうが多いかもしれません。このようにひとつの単語にもいくつかの品詞の用法があること、普段から意識して学習しましょう。

次の問題では、選択肢の中にいろいろな品詞があったのですが、違う品詞を選んでいました。

19. interfere

A) circumference B) interact C) instantaneous D) hinder

〇〇さんが選んだAは、使用頻度もあまり高くはない単語ですが、意味がわからずに選ぶとたいいてい外れてしまいます。意味がわからないときも、なんとなく動詞らしいかな、と思ったら動詞らしいものを答えに選ぶなど、品詞をてがかりに推測しましょう。スペルが似ているから正解、ということはほとんどないでしょうし、基本的には語彙力を高める（単語を覚える）しかないのですが、品詞がわかることは文法力であり、難しい文の意味を正しくつかむのにも大事になってきます。品詞をいつも考えながら学習していると、品詞の感覚がわかってくると思います。正解はDでした。

19. interfere 干渉する・妨げる

A) circumference 円周 B) interact 相互作用する・幕間 C) instantaneous 瞬間の D) hinder 妨げる

最後の指示語の問題は正解されていましたね。

何も書き込んでいない問題をみながら解けば、普段のレッスンもすべてテストとして使えます。同じ問題を何度もやることで、力がつきます。自分の力ですべての英文の意味を理解することができて、問題に正解できるようになるまで、丁寧に何度も学習しましょう。そうすれば必ず力が伸びてきます。

（ふつう、成果が現れるにはなるべく毎日のように頻繁に学習して、2ヶ月以上はかかります。力が伸びていても、正解にたどりつくまでに時間がかかるからです。ですから途中であきらめず、努力を続けることが必要です。）応援していますのでぜひ頑張ってくださいね。

安宅